



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

聖書通読をしていく中で、この雅歌ほど、主の名声として聞くのに困難なものはない。特に朝早くから読むには、あまりにも刺激的すぎるのだ。

「どうかあの方が、その口の口づけをもって、わたしにくちづけしてくださいように」(雅1:2)。

こんな言葉で始まる男女の愛を、赤裸々に歌い上げる雅歌が、どうしてこの聖典である聖書の中におさめられるようになったのか、それは、AD90年代に開かれたユダヤ教指導者たちによる「ヤムニア会議」にあるという。

AD70年のエルサレム神殿崩壊後、ユダヤ教の復興を目指したラビたちは、このヤムニアに集まり、マソラ本文(ヘブライ語旧約正典39巻)を定めた。その時、この「雅歌」をどう扱うかということについて激しい議論が起ったが、ラビ・アキバの次の言葉「雅歌に歌われる男女の愛は、神とイスラエルの民の関係を比喩的に歌ったものと解釈する」に説得され、正典の中に入れられたそうである。ところで、この会議の中

で、キリスト教は異端認定され、シナゴーク(ユダヤ教の会堂)を追い出されることになる。なんとも皮肉なものではないか。神の至高の愛を歌う「歌の中の歌(ヘブライ語原文の雅歌の意味)」が聖書の中に入れられる一方で、イエスを神の子と呼ぶキリスト者は、「命の書から消し去り、義人と共に書き留めるな」

瞑想

印章のように、私をあなたの心に、印章のように、あなたの腕に押し付けてください。愛は死のように強いからです。

雅8:6

主幹牧師 榎本 恵

そう考えるとき、この雅歌の詩人が歌う、心に押し入れた「印章」が、どんなに重要なものであり、また死という全てを終わりにしてしまうほどの力と同じほどに、いやそれ以上に愛の力のあることを、私たちは思いつくのではないか。これほどまでも憎まれ、その存在をまさに死の宣告のように消し去られようとされた

(18の祈り)との呪いの言葉をもって祈られることとなる。しかし、ここに神の大きな摂理があるのだ。もしあの時、そのままキリスト教が、ユダヤ教の一派に留まっていたとしたなら、今の世界宗教キリスト教はなく、極東の地に住む私たちも、その福音に与ることがなかつたかもしれない。

キリスト教が、今や、世界の人々を救う愛の宗教となる。「印章のように、私をあなたの心に、印章のように、あなたの腕に押し付けてください。愛は死のように強いからです」(雅8:6)。この男女の愛に喩えられる神とイスラエルの関係は、今や、「キリストと教会、あるいはキリストと個々人の魂との間にあるべ

き愛の関係を、象徴的に表現しているもの」(「新共同訳聖書註解」となった。愛は死のように強い。いや、愛は死よりも、はるかに強いものなのだ。

神の愛は、死んだものを復活させ、起き上がらせる。裏切った者を、散り散りバラバラに逃げ去った者たちを再び集め、キリスト者を敵とし迫害していたはずの者が、その愛に触れ、迫害される者となることを選び取って行く。どんなに苦しめられても、行き詰っても、途方に暮れても、虐げられても、見捨てられても、打ち倒されても、決して滅ぼされない。それは、まさに彼らが、その身に主の印章を押されたからに違いない。そして死に打ち勝つ愛を、その力を受けたからに他ならない。

友よ、復活の命を熱心に説いたパウロが「死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか」(Iコリント15:55)と絶唱したように、私も叫ぼう。「愛は死よりも強い。愛は死に勝利した」と。

東海教会一日アシュラムの 集いに参加して②

藤田 智恵子

初めてアシュラムの集いに参加しました。

榎本保郎牧師の本を求道中に読んでいた私は、アシュラムについてはよく分かりませんでした。息子さんの恵牧師にお会いできるという理由で迷わず申し込みました。

一日の集いはちょっと大変かなと思いましたが、実際には一日があつという間に過ぎてしまいました。充実した豊かな時間でした。その中の一つ、静聴の時。「各自神の前で心を開いて聖書を読みましょう。」というところで、一時間ただマタイ5章全体を読みました。

何回も説教で頂いている御言葉ですが、読めば読むほど分からな

くなってきました。

「そんなことは無理だ。私にはできない。」私が、私ごと、自分の思いばかりで聖書を読んでいることに気がつきました。

もう一度心を静かにし、主が私に望んでおられる事は何だろうと、心の中を無にして改めて聖書を読みました。分からなくともいい、ただ御言葉を受け止めようと思えました。与えられた一時間は全く足りませんでした。

そして二つ目は、恵みの時。お互いのために祈り合うことの大切さを学びました。皆さんか

ら祈って頂くことにより、私の悩み、心の重荷が少し軽くなりました。そして私も、お一人一人の問題に対して心から祈ることができるとなりました。



ファミリーの方々と。後列右が藤田姉。
隣は庄司姉（小林佳子姉ご長女）

弱い私ですが、これからも祈りつつ神様に育てていただきたいと思えます。
（東海バプテスト教会）

第27回三重（一日） アシュラム御礼

岡部 千幸子

3年越しの三重アシュラム、皆様のおかげで共に恵みの内に終えることが出来ました。

生前「アシュラムの冊子を送ってね」と電話口でおっしゃっていた小林佳子姉にもやつと、「とつても恵まれた集会でしたよ！」と報告することが出来ます。

新しいファミリーの祈りとともに、三重アシュラムの再開のために祈りください。

今振り返ってみますと、マタイ26・17〜19節の都のあの人のようにイエス様が名もない私を必要として用い



近畿福音ルーテル津教会にて初のアシュラム、感謝します。

信仰のファミリーとなるこの一年
互いに祈り励ましあわん
小林佳子
歌集「であい」より



て下さったのだなと思
い感謝しております。
（三重アシュラム
実行委員）

神様からのプレゼント



尾崎 恵

恵先生が名付けてくださった「百合の会」。長年祈ってきたお祈り会を、4月2日、恵先生を通して、主が開いて下さり、感謝の時を過ごせました。

急に決まったのですが、沢山の方々が参加してくださり、其々の証の中に生きて働かれる主を見ることができ、励まされました。

私は、6回の手術を受けながら、30年間、がん治療をして、昨年8月から緩和ケアを選択しています。

何も出来ない私にも、主は恵みの上に恵みを与え続けてくださっています。これからも、

宝塚の地にもアシュラムの学びの輪が広がっていますようにお祈りいたします。

す。



早天感謝の祈り

夜が長く感じられますが「恐れるな。…大きな喜びを告げる」ルカ2:10 天使のことばを信じ、主を待ち望み続けられよう、この弱い者も祈ります。(5月12日)



桜咲く頃に祈りの会を開きましょう、というお約束、叶いましたね。恵姉と恵師。宝塚市売布にて。

「出会いの神秘」

50冊の「ゲスト・ブック」を組として

一粒社

この度、唄野隆・絢子御夫妻が御本を出版されました。本文105ページ〜110ページに保郎師との出会いをお書き下さっていますので、皆様にご紹介させて頂きます。



「アシュラム運動」に

献身した父

榎本先生が、今治教会を辞し、近江八幡に本拠を据え、アシュラム運動に専念されたときから、父はアシュラム運動に献身したようです。そしてアシュラムの常任委員になり、常任委員長だった松山さんがメキシコに移住された後に、常任委員長になって、長くその務めを担いました。また勤め先の「田村商会」を退職後、その大阪事務所の管理を任せられていたのですが、閉店後、そこを借りて、多くのアシュラムの友と、楽しみに「アシュラム委員会」を開いていたことを思い出します。

榎本先生の存命中から、あちこちのアシュラムにもついて回り、先生が召された後も、日本全国だけでなく、アメリカやメキシコ、台湾、シンガポールなどのアシュラムにも

出席していました。数え上げれば150回を超えています。アシュラム常任委員長は、母が認知症になり、父が「おばあちゃんの世話をしようが、わしの召しだと思おうようになった」と言って、母の世話を専念するまで長く続けました。(続く)



台湾アシュラムにて、唄野政一父と、榎本和子母。



この本の題字は、唄野政一父の筆にて、他にも多くの書あり。「向こう岸へ渡ろう」アシュラムセンター発行1992年 絵は川添綾子姉。

誕生日カード御礼のお便り 感謝こめご紹介します。

「イエスは主なり。『お祝いのカードください』のお願いに、お祈りの寄せ書きをいただき、幸せを感じております。この気持ちで、新たに信仰生活をスタート致しました。」

平和を求める祈りのカードにて 両方 仁子姉 より



信仰の友と。甲西伝道所(ピスガこうせい内)母の日礼拝後。新姉、和子母、佐賀姉。



和子母の妹御葬儀のため、淡路島に。徳島から、貝出ご夫妻が宿に訪ねて下さった。Zoom早天を飛び出して、リアルにお会いでき感激!(和子母は長旅疲れでお休み中)

小林佳子姉への哀悼の辞②

榎本 恵

「寒さの中に咲く花が どうしてこんなにあたたかい色をしているのか」と誰かが弱い私を優しく見守ってくださいませんか」

佳子さんが、愛してやまない星野富弘さんの美しい詩です。一輪の桜の絵と共に書かれた、この詩からは、彼女の信じた弱い時にこそ強い、暖かな主の姿を思い起こすのではないのでしょうか。そして同時に、佳子さんの人生そのものを、思い起こすのではないのでしょうか。「きつと誰かが見守ってくれる」これこそが、彼女の、そして私たち後に続く者すべての信仰告白なのです。

さて、私が最後に佳子さんにお会いしたのは、昨年の10月のこと



アシュラム誌に吉田姉、島隆三先生が写っていて、懐かしく、とても心が温まりました。

コロナですが、主に留っていただければ他者と繋がれる：お祈り感謝申し上げます。

宮脇 幸子



近江八幡にて、初任後、修道場アシュラム。恵師隣に、佳子姉、杖と共に歩いて。茂男兄、沖田姉、和子母！

ここ数年何度も重篤な状態に陥りながらも、奇跡的に復活なさってきた佳子さん。そのときはいきましたが、元氣なご様子で、新しく出される第3歌集「出会い」の原稿を私に渡され、序文をお願いしま

すねと、依頼されたのでした。あれから半年足らず、今年の2月ようやく書き上げた原稿を送り、電話でお話ししたのが最後になるとは、思いもしていませんでした。主のなさることは、私たちにはわかりません。けれどもそれにはきつと意味があるのです。主は、この受難節の時を選び、多くの無辜の命が奪われる戦争の時を選び、地震や火山の噴火が起こる天変地異の時を選び、この愛する姉妹を取り上げました。しかしこの暗さと重苦しきの時にこそ、寒さの中に、暖かな桜の花が咲くのです。一輪の桜の花の咲く時を選ばれ、主は佳子さんを天へと連れ帰ったのです。主のなさることは、いつも時に叶って美しいのです。ハレルヤ、主を讚美せよ。



シメオンの風を感じながら掃除のご奉仕出来ますこと、感謝です！と市橋恵子姉。教会の皆様にも是非この風を！と、シメオン庭での野外礼拝を28日に。



4月修道場アシュラム最終の充満の時。アンナ祈りの家にて。



みんなのカフェいろいろにて。みことばとコーヒーと分かち合いのひとつきに満たされて。

私たちには悲しみがあふり、不安があり、恐れがあることでしょう。この世の終わりを思わせるような時代にあつて、しかしその時にこそ、あたたかく守ってくださる主を信じ、御元へと駆け登っていった佳子さんのことをしっかりと思い起こさなければならぬのです。(終)



主幹牧師の2021年度の振り返りと2022年ビジョン(5)

さて、最初にも書いたように、昨年一年間も、コロナの影響により計画していたアシュラム集会、また聖書教室ができないままで終わったことは、誠に残念なことである。そのような中で、昨年10月、日本アシュラム連盟の「関西アシュラム」の助言者として招いていただいたことは、誠に感謝なことであった。今回の年頭アシュラムにも、日本アシュラム連盟の事務局の貴村かたる牧師が、ご参加くださっているが、連盟とアシュラムセンターのつながりが、ますます深くなることを期待しつつ、なお、それぞれがその特性を認め合い、生かし合い協力していくことができれば、これほどの恵みと証しはない、これもまた人の計画をはるかに超える神の不思議なご計画である。

最後に、昨年12月に開催された「教職者のためのリトリートアシュラム」について報告する。昨年のアシュラムセンターの大きな働きは、シメオン黙想の家、アンナ祈りの家を用いての、修道場アシュラムであった。5月、6月、7月、10月、11月と2泊3日の修道場アシュラムがコロナ禍の中で開催できたことは、まさに神の恵みによる他ない。もちろん、できうる限り万全の感染対策を行い、全国から参加者をお迎えした。多くの方から、喜びの声が届き、またリピーターもあったことがなによりであった。そのような中で、教職者(牧師、教師、その他教会の指導的立場にある人たち)を対象とした修道場アシュラムが、アドベントの大変忙しい時期に行われた。果たして、この時期に参加する方がおられるだろうかと思念されたが、最終的には、何人かのキャンセルも出たが、4泊5日のプログラムに、のべ20名の参加者が与えられたことは、感謝なことである。講師としてご奉仕くださった方々も、日本のキリスト教界を代表

される方々であり、参加者も含め、多くのリーダーたちにアシュラムセンターの働きを知っていただく良い機会となったことは間違いがない。神は、時と人を用いて、そのみ業をなされる。この成果は、この後必ず、現れてくるだろうと確信している。

いずれにせよ、確かに2年連続で、私たちの立てた計画は実現せず、また、事は自分たちの思うようには進まなかった。けれども、その中であって、神はただなすべきことをなされ、そこに私たちの思いをはるかに超えた恵みの数々を用意してくださっておられる。確かに、人は、その恵みよりも、自分の不幸や力のなさを数えることの方が多い。しかし、その時こそ「数えてみよ、主の恵み」なのだ。

「あなたは、恵みと憐れみの神であり、忍耐深く、慈しみに富み、災いを下そうとしても思い直される方です」(ヨナ4:2)。

2021年を振り返りつつ、私は、この恵みと憐れみに富み給う神を思い起こしている。そして、たとえまだまだ混迷の時が続いたとしても、神は決して、私たちをお見捨てにはならない。その方を信頼し、その恵みを数えつつ、この年も進んでいきたい。(続く)



日本アシュラム連盟
関西アシュラムに初のお招きお交わり感謝!

イエスは主なり。毎月のアシュラム誌を心待ちにしています。私共80代後半に入りましたが、主にすべてゆだねて歩んで歩んでおります。アシュラムのため、これからも祈り続けます。

古川良男・契子

あとがき

沖繩の本土復帰50年の年を迎えた。今年61歳になる私は、1972年の沖繩復帰の年、まだ小学生だった。

初めて沖繩の地を踏んだのは、1987年、26歳の時。それから2年後の1989年、長男空が1歳の年に、家族三人で伊江島へ移住した。そして2007年、アシュラムセンターに帰って来るまでの約20年、あの空と海のもとに住まわしてもらった。

さまざま思い出がよぎる。私にとって沖繩時代は、まさに宝の体験であったと思う。今、ウクライナの戦争が、私たちの日常生活の中にその影を落としていく。多くの沖繩の人が、きつとその映像を、特別な思いを持って見ていることだろうと思う。

あの全てを焼き尽くし、多くの命を奪い去った戦争が終わって77年。主の平和が、この世界を覆うように祈らずにはおれない。沖繩の知恵は言う。「ぬちどうたから」命こそ宝なのだ。(恵)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり!

6月の聖書教室など		【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
3(金)	阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会 PM1:00)	
7(火)	Zoom聖書教室(AM10:30、PM7:30)	
11(土)	加古川祈りの家(小林清子姉宅 PM1:00)	
11(土)	聖書と学ぶ会(Zoom PM8:00)	
13(月)	福岡聖書教室(博多クリオコートホテル PM1:30)	
15(水)	カフェちろば聖書入門講座(京都・伏見区深草 PM1:30)	
17(金)	センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00)	
19(日)	ちろば牧師記念チャペルタ礼拝(PM5:00)	
20(月)	箴言に学ぶ会(Zoom AM10:30、PM7:30)	
21(火)	大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30)	
27(月)	静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)	
28(火)	東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター4F AM10:30)	
29(水)	美しい足の会(Zoom AM10:30、PM7:30)	
7/1(金)	阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会 PM1:00)	

6月のアシュラムなど		
16(木) 18(土)	2022年 修道場アシュラム⑤ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
17(金)	新潟一日アシュラム (日基新潟教会) 奉仕者 吉澤 昭男師	0250-23-2697 吉澤昭男師
20(月) 22(水)	第46回 教職アシュラム (八王子大学セミナーハウス) 奉仕者 島 隆三師	048-789-1325 加々美要師
22(火) 25(土)	沖縄巡礼の旅 是非一緒に! (6/8水までにお申込み下さい!)	0748-33-4030 アシュラムセンター

7月のアシュラム予定		
9(土)	第3回 四国一日アシュラム 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
18(月)	第25回 福岡一日アシュラム 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
16(土) 18(月)	2022年 修道場アシュラム⑥ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家)	0748-33-4030 アシュラムセンター
30(土)	天上の友を憶える日礼拝 (櫻本保郎師 召天45周年記念式)	0748-33-4030 アシュラムセンター

8月以降のアシュラム予定		
10月17(月)~18(火)	新潟アシュラム	
10月20(木)~22(土)	加太アシュラム	
10月27(水)~28(金)	第10回 日光オリーブの里アシュラム	
11月2(火)~4(金)	第47回 京浜アシュラム	

後半期Zoom聖書教室など、申し込み受付中!
詳細はインターネットで。

みことば

ノースカロライナ大学院生
Zoom聖書と学ぶ会
榎本 空

終わりの日には、どの国の民も
他の民に向かって剣を上げることはなく、
もはや戦いを学ぶこともない。
イザヤ書2章2、4

『それで君の声はどこにあるんだ?』が発売されて、1週間たった。おかげさまで好評をいただいている。読んでくださった方々、ありがとうございます。

自分で読み返してみると、うまく書けたところよりも、書けなかったところが気になってしょうがない。まだまだ未熟だと思いつつ、こうして文章を書いている。それでも、コーンの思想と生き方がより多くの人々に開かれたものとなるなら、私の書き手としての至らなさなど、あまり関係ないことなのかもしれない。

アメリカでは、再び人種的な悲劇が繰り返された。5月14日、ニューヨーク州バッファローのスーパーで起こった銃乱射事件のことだ。白人至上主義者による犯行で、10名の犠牲者のほとんどが黒人だったという。きっとこれからも、黒人の命が蔑ろにされる現実が続いていく。

コーンについて書くよりも、彼について書いた者として生きることの方が、大変なことなのだろう。この現実を前に、深くそう思う。もちろんそれは、民が他の民に向かって剣を上げる世界にあって、キリスト者として生きることに関わっている。キリスト者となることよりも、キリスト者として生きることの方が、よっぽど骨が折れる。そんなことを思いつつ、私たち家族は復帰50年の沖縄に向かう。終わりの日は、まだまだ遠い。(次号につづく)



◀空兄の強力な応援団、近江平安教会の皆様と。左から1匹3人目谷本師。左端は鳥井師。空兄の新刊本を手に。本文冒頭に登場する「音楽好きの丸メガネの知人(てる子師同志)」ご本人!